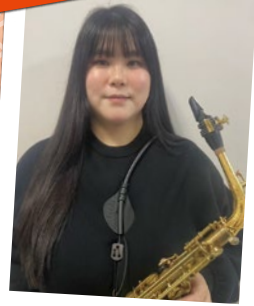


オオサカン楽員の 楽器の小屋～オオサカンサウンドの源～

楽員と楽器の関係を探る連載企画、第10弾は\\サクソフォン奏者 小山 麻奈！//
楽器へのこだわりや大事にしていることを伺います。

サクソフォン
小山 麻奈 Mana Koyama



現在使っている楽器のメーカー名・モデル名は？

◆アルト・サクソフォン
H.SELMER(セルマー)
SA80 SERIEIII
DRAGON BIRD



◆テナー・サクソフォン
H.SELMER(セルマー)
SA80 SERIEII



◆バリトン・サクソフォン
H.SELMER(セルマー)
SERIEIII JUBILEE

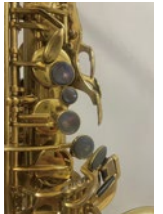


フランスのSELMER社のものです。全てゴールドラッカー仕上げ、アルト・サクソフォンはネックのみ金メッキです。アルト・サクソフォンとテナー・サクソフォンは2010年以前に製造された楽器(ジュビリー前モデル※)を使用しており、永く吹くほど音色に深みが出てと言われていて、落ち着いた音色だと思います。バリトン・サクソフォンは現行のジュビリーモデルを使用しており、どの音域でも均一で、コントロールがやすく、明るめの音色です。

※2010年以降に発売された現行モデルを「ジュビリーモデル」というため、それよりも前に発売されているものは「ジュビリー前モデル」と呼ばれています。

現在使っている楽器を選んだ理由や気に入っているところは？

3年ほど前に、楽器を買い替えようと思い幾つも試奏していましたが、なかなか自分の探している音色が出せる楽器が見つかりませんでした。そんな時によく出会ったのが今のアルト・サクソフォンです。ジュビリー前モデルの深みのある音色を求めていたので、試奏した瞬間これだ！と思いました。中高生の頃に憧れていた限定モデルの最後のデザインで、まさかこの楽器を自分が演奏することになるとは思っておらず、運命を感じました。そして、限定モデルならではの独特のデザインで、ベルの部分には「ドラゴン」と「バード」の彫刻が施されています。また、キー部分の指貝は、通常白のものが多いですが、この楽器は黒になっています。さらに、楽器本体のゴールドラッカーは通常より少し暗め。明るすぎず暗すぎない色がお気に入りです。私は人と違うものが好きなので、この楽器を持つたびにモチベーションが上がります。出会いに感謝！



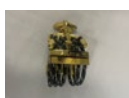
アルト・サクソフォンのパーツに関して教えてください。

◆マウスピース SELMER S90 180



たくさんのマウスピースを使用し、試行錯誤を重ね探求し、探究し続けていますが、結局のところ、現時点では定番で多くのサクソフォン奏者が愛用しているSELMER社の製品を使用しています。はっきりとした音色と幅広い音量の変化をつけやすいのが特徴だと思います。

◆リガチャー SILVERSTEIN (シルバースタイン)



こちらは以前の楽器を吹いていた頃から使用している初期モデルで、現在2代目になります。自分好みの締め具合に調節しやすく、リードが無駄に動くことなく安定感があり安心して演奏できます。個人的にもすっきりしたクリアな吹奏感で気に入っています。

◆リード Légère (レジェール) Signature 3.50



樹脂製のリードで、購入段階で選定することができ、練習前のリードを選ぶ時間を大幅にカットできます。木製のリードと違って湿度に左右されることなく一定の水準を保てるのでとても重宝しています。自身の状態変化によって交換できるよう一段階柔らかい3.25も常に持ち歩いています。

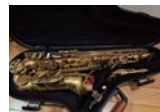
◆ネック SELMER SERIEII



メインで使用しているゴールドプレート仕上げのものに加え、本体付属のゴールドラッカー仕上げも常に準備しており、ジャンルや演奏会場によって使い分けています。

楽器ケースのポイントは？

アルト・サクソフォン、テナー・サクソフォン共にGL CASES x Wood Stone (ジーエルケースxウッド・ストーン)のコラボモデルを使用しています。丈夫で、スタイリッシュなデザイン、豊富な収納スペースなど、とても魅力的なケースです。常にたくさんの選択肢を持っていたいので、左記に紹介したパーツ以外にもリード、リガチャー、マウスピースを複数持ち歩く私にとってポケットのサイズは最も重要！パーツに加え、掃除道具まで入る大きなポケットはとても重宝しています。バリトン・サクソフォンは多くの人が使用していて定番といえるSELMER社のバリトン・サクソフォン用フライトケースを使用しています。



アルト・サクソフォン用

テナー・サクソフォン用

練習の際、常に持ち歩いているものは？



まずサクソフォンには欠かせないストラップ。こちらはhooki(ホーキ)というストラップで、人間工学に基づいて頸椎への負担を軽減し、より自然な姿勢で演奏できるように設計されています。楽器の重みを肩全体に分散させることで、長時間の演奏でも疲れにくく快適に演奏することができます。ストラップもたくさん試してきましたが、今までで一番身体が楽で呼吸もしやすいです。次に小物バッグ。ここには楽器のメンテナンスに必要なものがたくさん入っており、これが無いと安心できません！



楽器を演奏する時に大事にしていることは？

音楽を奏するために、単に音を出すだけでなく、聴く人に何かを感じてもらふこと、共感を得ることが大切だと考えています。そのために、ただ楽譜通りに吹くだけでなく、楽曲の背景や作曲家の想いを深く理解し、自分自身の解釈を加えて表現することが重要だと思います。また、正確な音程やリズム、美しい音色をイメージし演奏することも大切にしています。さらにアイデアの引き出しを増やせるよう取り組む楽曲に対して様々な団体の演奏を聴いて勉強し、一緒に演奏する他のメンバーの考えも聞く心がけています。また、常任指揮者の松尾さんにはマルチプレイヤーになって欲しいと言われています。どの役割もできるようになることは私の強みになると。なので、アルト、テナー、バリトン、それぞれの楽器のオオサカンサウンドでの役割、立ち位置を理解し、吹きこなせるよう努めています。

あなたにとって「サクソフォン」とは？

サクソフォンは、私のもう一つの声です。様々な音色で奏する音は、心の奥底から湧き出る感情をそのまま表現しているように感じます。初めてサクソフォンを上手く演奏できた時(子どもの頃の自分なりにですが)の感動は、今でも鮮明に覚えています。自分が奏でた深みのある響き、人間の声のような音色に自らが心を奪われ、ずっと楽器を吹いていた！と強く思いました。そして、たくさん練習していく中で、サクソフォンは私にとって相棒となりました。とにかくサクソフォンの音色が好き、演奏が好き、見た目も小物も好き、もう全てが好きで、CDをたくさん聴き、のめり込んでいました。今では大切な仲間とアンサンブルを行い、子どもの時に描いていた理想の音楽家に少しずつ近づくことができているかな？と思います。これからも、サクソフォンを通して様々な音楽を奏で、多くの方に感動を与えたいと思っています。そして、私自身もサクソフォンと共にオオサカンで成長し続け、理想の音楽家になりたいと願っています。

